

新しい薬学の未来を拓く

学長 乾 賢一

志高く、夢と希望にあふれて京都薬科大学に入学された学部学生ならびに大学院生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。また、ご父母やご関係の皆様も、さぞお喜びのことと存じ心からお祝い申し上げます。

さて、2006年に始まった薬学6年制は、本年3月に初めて卒業生を社会に送り出しました。本学では320名の第1期生が巣立ち、製薬企業、病院、薬局などに就職し、また内10名は博士課程に進学して新たな活躍を始めました。本学の建学の精神「愛学躬行」を心に宿しながら、ファーマシスト・サイエンティストとして、全国各地でひとときわ輝く活動をしてくれることと信じています。6年制薬学が社会から真に認められるためには、まだまだ時間を要すると思いますが、新入生の皆さんが檣舞台に立つ頃には、医療現場や製薬企業などにおいてポジティブな評価、波及効果が広がっているであらうでしょう。

6年制薬学改革に伴う本学の建物などハード面の整備はほぼ完了し、教育・研究環境が整いました。すばらしいキャンパスに変貌した本学に対して、学外の来訪者からは、異口同音に感嘆と羨望を耳にします。一方、ソフト面の改革も着実に進んでいます。本年度の新入生から新しいカリキュラムが始まります。語学教育や教養教育の充実、スモールグループ討議などを含む初期導入教育の充実などです。更に6

年制薬学部の上に、本年4月から大学院薬学研究科博士課程（4年制、定員10名）がスタートしますが、これは基礎薬学コースと臨床薬学コースから成ります。加えて、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に申請（5大学共同）していたプログラムが採択されました。このコースも本年4月からスタートしますが、本学博士課程の大きな特徴になりそうです。

最後に新入生の皆さんに望むことが二つあります。その一つは自分で学ぶことを、また考えることを学んでほしいということでありです。大学ではこれまで以上に自由な時間が増えることから、自分一人で学ぶこと、また考えることを習慣づけてほしいと思います。自ら学び取った知識、考え抜いて得られた知識は忘れにくいものです。第二は、広い視野と豊かな人間性を育んでほしいということです。学生時代こそスポーツやその他の課外活動を通して友達や先輩との心のふれあいを高めることができる時です。それによって、豊かな人間性や感性を育むことができると思います。これは医療人、薬剤師に強く求められている素養であります。

新入生の皆さん、新しい薬学の未来を拓き本学から全国に向けて、世界に向けて情報発信しようではありませんか。皆さんの健康と充実した大学生活を祈念します。

CONTENTS

新しい薬学の未来を拓く 学長 乾 賢一	1	2012年度大学院入学選考結果	14
定年退職のご挨拶	2~3	2012年度入学試験結果	14
特集 2012年度入学生カリキュラム	4~7	2012年度オープンキャンパス開催のお知らせ	14
進路状況および		Library News	15
2011年度学内合同企業説明会開催報告	8~9	クラブだより	16
卒業生からのメッセージ	10	受賞	17
バイオサイエンス研究センター起工式	10	お知らせ	17~19
太陽光発電設備稼働 発電開始	11	京薬会だより	20
奨学金について	12~13	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	20

定年退職のご挨拶



生命薬科学系
生化学分野

教授 畑山 巧

私は昭和63年4月に大阪市立大学医学部より京都薬科大学生化学教室に着任いたしました。はや24年の在職期間が過ぎ、定年を迎えることになりました。その間、皆様には随時ご支援を頂きまして有難うございました。

私は人生を大きく三つに分けられると思っています。第一の人生は学生時代までの勉学の時代、第二の人生は働き盛りの時代、第三の人生は晴耕雨読、理想的には心の赴くままの(?)人生です。私もいよいよ第三の人生に入ることになりますが、学生の皆様は第一の勉学に勤しむ時代であり、今後の人生を謳歌するための基礎をつくるために頑張られるよう期待しています。

京都薬科大学においては、生化学の教育と研究に携わってきましたが、私の専門の生化学という学問は生命現象の解明にかかわる科学であります。一方、薬学は応用科学であり、薬に関するテクノロジー全般にかかわる学問ですから、薬学では実践的な学問を重視しがちであり、技術の進歩が科学の進歩と混同される傾向があります。昨今、大学および大学院教育においても技術、実務の習得に主眼が置かれるような風潮が目立ってきており、薬学もその例外ではありません。しかし、学生にとって本来大学で学ばなければならないことは、実利より学びの面白さを尊び、科学的・論理的思考力の育成を第一に目指すべきであると思います。

研究面では、最終講義でお話ししましたように、「研究はにぎり飯より柿の種」をモットーとしてきました。この言葉は、基礎研究はすぐに役に立ち場合によっては非常においしいにぎり飯のようなものより、すぐには評価が定まらないが、後になって根が張り、枝が伸び、花が咲き、おいしい実になるような「柿の種」のような研究をすべきであるということです。逆に言えば、その時代、時代の流行に追従するような研究は成果がすぐに出てもその場限りでしかないということです。私の「柿の種」は小さいものではありませんが、熱ショックタンパク質に関する研究でありました。大阪市立大学医学部において始め、その後私が京都薬科大学の生化学教室に赴任させて頂いて以降、本学で24年間にわたって多くの教室員、大学院生、卒論実習生等の皆様の協力によって出来上がってきたものであります。これらの実りは、生化学教室、生化学分野を通して多くの協

同研究者、学生諸君の努力の賜物でありますので、これらの皆様方に深く感謝の意を表します。

最後に、本学関係者の皆様方のご支援にも感謝いたしますとともに、皆様の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



基礎科学系
健康科学分野

教授 濱崎 博

「出会い」は「別れの始まり」といいます。私は昭和48年(1973年)本学に専任講師として着任いたしました。以来39年、本学一途に人生の大半を過ごしてきましたが、本年3月定年の時を迎えることになりました。まさに「光陰矢のごとし」、早いものです。

本学に勤めてからの39年間、実に多くの人と出会い、そして別れてきました。私は川面に立つ一本の杭に喩えることができます。「私」という杭の周りにはたくさんの浮草が流れていきます。遠くを流れるのもあれば、すぐ近くを流れるのもありました。単純計算で15,000名弱の学生と接したことになります。その幾本かは杭に掛かり、暫く留まりながらもまた流れて行きます。ごく一部の浮草は梅雨の洪水や夏の日照りにも耐えて残ってきました。

また、この世に生を受けて以来、どれだけ多くの人たちと関わってきたことでしょうか。人との出会いが人生を決定すると言っても過言ではありません。私が教員を志したのも、本学に奉職したことも、その時々に出会った大切な人の影響によるものであります。この39年間授業で知り合った学生、クラス担任(以前は30組、現在は学生相談員39組)、クラブ活動(バレーボール部、アメリカンフットボール部、ヨット部、写真部)に関わった学生たち、18年間の研究室の学生、スキー教室、基礎演習、その他いろいろな関わりの中で信頼を築きあげてきました。その一人ひとりが私にとって京都薬科大学から頂いた一番大切な、かけがえのない財産となっています。また、多くの教員や職員の方にも支えられ、今を迎えることが出来ました。素晴らしい人達に恵まれ、京都薬科大学での教員生活は120%の満足で終えることができました。

皆様、有難うございました。心よりお礼申し上げます。

今、私は65歳、「退職したらどうするの?」とよく聞かれました。

私の座右の銘は「過來なく未来なく、ただ今あるのみ」です。65歳でも80歳でも私の人生は「今から」始まります。楽しい充実した人生は今からです。

いつの日か、何処かでまたお会いする日が有るかもしれません。

それまで、みなさん「さようなら！」。



薬学教育系
教育研究総合センター
学生実習支援センター
准教授 大槻 雅子

1969年に京都薬科大学薬学科を卒業後、43年の長きにわたり教員として勤めさせていただきましたが、この度、定年での退職を迎えました。本学学生としての4年間を含めると半世紀近くをこの大学のキャンパスで過ごしたことになります。自分の事ながら驚いています。この間に大学では2学科（薬学科と製薬化学科）240人から、3学科（薬学科、製薬化学科、生物薬学科）360人を経て薬学6年制へと移行し、本年は6年制薬学教育の初めての卒業生が巣立っていく記念の年になります。このような記念の年に定年退職を迎える事に感慨深いものがあります。

1969年4月に、3・4回生の卒論研究で所属していた本学微生物学教室（現微生物・感染制御学分野）の助手として採用いただきました。当初、研究室は駐輪場のあたりの5号館3階と西門横の駐車場のあたりの2号館2階に分かれ存在していましたが、今ではそれを知る方は少なくなって来ました。故中澤昭三教授、故谷野輝男教授、西野武志教授（前学長）、後藤直正教授（現副学長）のもと、研究や大学院生、学部生の卒業論文実験の指導、学生実習の指導に携わって来ました。微生物学教室では新規抗菌薬の開発に関する研究や淋菌の薬剤耐性に関する研究などを行ってきました。新しい手技を使つての研究や、新しい知見が得られた時にはそれまでの疲れも飛んでいきました。週に数回の徹夜実験など今では懐かしく思い出されます。2005年に学長企画室、2008年には新しく創設された学生実習支援センターに異動となり、学生実習の支援を担当してきました。

これまで卒論研究を通して出会った学部生について感じたことは、社会に出ると大きく成長され、それぞれの領域で情熱を持って仕事に取り組み立派に活躍されていることです。在学生の皆さん、学生実習や総合薬学研究等の貴重な時間を無駄にすることなく実践能力、データ整理や考察、発表など自ら行動出来る力を付けてほしいと思います。

最後になりましたが、京都薬科大学の益々のご発展と、学生の皆様、教職員の皆様のご健勝をお祈りし、退職のご挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。



薬学教育系
教育研究総合センター
学生実習支援センター
講師 港 晶雄

昭和46年に恩師の鈴木桂三先生（本学名誉教授）に化学教室の助手として採用していただき40数年、良き上司、良き同僚に支えられ無事定年を迎え

る事ができました。私のような我が儘な人間がこの年まで勤められたのもひとえに京都薬科大学の皆様方の寛容と忍耐のお陰と心より感謝しております。

2年間鈴木先生の薫陶を受けた後、京都大学工学部の熊田誠先生（京都大学名誉教授・学士院恩賜賞）の研究室で玉尾皓平先生（京都大学名誉教授・現理化学研究所基幹研究所所長、文化功労者顕彰）に研究を教えていただきました。ニッケル・パラジウム触媒カップリング反応の研究で、昭和57年に、京都大学薬学部犬伏康夫先生（京都大学名誉教授）のところで学位をいただきました。留学については、尾島巖先生（ニューヨーク州立大学教授）などから米国の情報を戴いておりましたが、結局、「超分子化学」の提唱者であり、当時最も有名で、人気のあったレーン先生（ルイ・パスツール大学教授、ノーベル化学賞）の研究室（コレージュ・ド・フランス）で、平成4年9月から1年間お世話になりました。

20年足らずの研究活動でしたが、野依先生をはじめとしてノーベル賞受賞者を多数輩出した「有機金属化学」の絶頂期やレーン先生の「超分子化学」を体験できる幸運に恵まれました。カップリング反応のノーベル賞（鈴木先生・根岸先生）には驚きましたが。

平成7年3月に薬剤師教育研究部門に配置換えになり、井上武久先生の下で、15年間、国家試験対策を担当しました。また、平成12年から10年間、京都大学で非常勤講師として理学部、工学部、農学部などの学生に基礎の有機化学や化学実験を教えました。平成22年4月に学生実習支援センターに移り、少なくなった大学院生の代わりとして実習の手伝いをしました。色々な実習を体験でき、若い先生方や多くの学生さんとお話しさせていただいたのは楽しい思い出です。

最後になりましたが、お世話になりました森岡茂夫氏（元山之内製薬会長）、岡野隆良氏（大阪製薬）、稲垣千代子先生（関西医科大学名誉教授）、石川満夫先生（広島大学名誉教授）に感謝するとともに京都薬科大学の益々の発展と学生の皆様の今後のご活躍と教職員の皆様のご健勝をお祈りし、退職の挨拶とさせていただきます。

カリキュラム改訂の経緯

2006年度からスタートした6年制薬学教育は2011年度に完成年度を迎え、2012年3月初めての卒業生を送り出しました。6年間のカリキュラムは「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」をベースに本学独自のカリキュラムを加えて構成しています。6年制教育の進行とともに科目配当時期、授業内容や本学独自科目等について見直しが必要と考え、2009年6月からカリキュラム検討コア委員会を立ち上げました。改訂作業では、問題点の改善はもとより、多様化する学生のニーズも視野に入れ、本学の教育方針である「ファーマシスト・サイエンティストの育成」に沿ったカリキュラム策定を行いました。

こうして完成した新カリキュラムを基盤とする教育研究の舞台の主演はあくまでも学生の皆さんです。教職員一丸となり、その舞台を精一杯支えることをお約束します。学生の皆さんもそれに応え、大学という教育研究の舞台で皆さんの才能を開花されることを期待します。

新カリキュラムでのトピックス**初期導入教育の充実**

問題発見・解決能力の育成、豊かな人間性やコミュニケーション能力の修得を目標に、基礎演習ではSGD^{*1}やPBL^{*2}を経験する。また、早期体験学習ではSGD^{*1}の実践によって目的を明確にさせ、病院・薬局見学、企業見学等に臨む。さらに基礎演習、情報処理教育や新たに設定した基礎科学実習をリンクさせ、文書作成の基礎、プロダクト作成のためのディスカッションおよびプレゼンテーションの基礎を修得する。

ヒューマニズム教育の充実

継続的な科目配当によって、薬剤師や薬学研究者等の社会的な役割、生命倫理・医療倫理の基本的態度の確立を図るとともに、患者のみならず他の医療従事者との連携に向けたコミュニケーション能力を修得する。

IT、数学、統計の体系的カリキュラム

IT技術や統計解析を中心としたデータ解析を体系的かつ継続的に学習することによって、基礎薬学研究、医薬品開発や臨床治療研究といったさまざまな場面でのエビデンスに基づいた論理的評価法を修得する。

外国語の強化

グローバル化の進展から高い英語能力が求められている。一方、薬学も含めた理系領域で求められる英語は一般社会で使用される英語とは異なった特徴を有する。そこで、基礎的な科学英語の履修を出発点にして、薬学英语および医療現場に必要な英会話能力を修得する。また、一般的な英語に加え、初修外国語を基礎とした異文化修得科目を開講することによって、深い教養を身につける。

「化学」の基礎から「創薬」まで

高校での化学履修に連携した基礎的な化学の履修を出発点にして、薬学の基本である化学を体系的に修得する。これらの知識を基盤にアドバンスト創薬学を修得する。

「生命科学」の基礎から「腫瘍細胞生物学」まで

生命現象や疾患・治療法の理解のために必須である生命科学や細胞生物学の体系的な履修のために、生命科学、生化学、解剖学、生理学や細胞生物学の密接な連携を図ることによって、確固たる生命科学の基盤を形成する。これにより生物系応用科目の理解を深める。また、これらの修得を基礎として、腫瘍の細胞学を深く理解する。

総合薬学研究でのコース教育の導入

3年次までに修得した知識・技術・態度を基盤として、分属された分野・センター等で先端的研究に触れ、実践する。その後、学生のニーズに応じて探求薬学コースと実践薬学コースに分かれ、総合薬学研究を継続することにより、基礎薬学研究を含めた医薬品の開発からその適正使用にわたる広範な領域での問題発見・解決能力を醸成する。特に実践薬学コースでは、薬学部卒業生が望まれる職能のうち、実務実習のみでは修得困難な内容を、演習や体験プログラムによって学び、その職能への関心や意識を高めることも目的としている。これらコースにおける学習では、実験的および調査的研究に加え、PBL^{*2}やSGD^{*1}を積極的に取り入れる。また、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高めるために実践的に研鑽を積む。

6年間のカリキュラム

科目群	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
薬学教養	医療の担い手としてのこころ構えA 早期体験学習 基礎演習	医療の担い手としてのこころ構えB	医療の担い手としてのこころ構えC			
人と文化	哲学倫理学・コミュニケーション学と 談話分析・文化論A・日本文学・ 外国文学A・外国文学B・ 法学A・日本国憲法・京都学・ 歴史A・医療と社会・特別講義 ＜単位互換科目＞	人間学・文化論B・心理学・法 学B・歴史B・科学史・現代社 会・国際問題・スポーツ療法・ 特別講義	医療心理学・環境学・医療経 済学・医療社会学・特別講義			
外国語	英語1A・1B 薬学英語1A・1B ドイツ語と文化A・B フランス語と文化A・B 中国語と文化A・B ＜語学検定＞	英語2A 薬学英語2 英語2B・2C・2D・2E ドイツ語2A・2B フランス語2A・2B 中国語2A・2B ＜海外語学研修＞	薬学英語3A・3B	薬学英語4A・4B		→ >
体育	健康科学 体育実技					→ >
専門基礎 (補講)	情報科学 基礎数学A・B 基礎物理学A・B 基礎化学 生命科学 〔 情報科学補講 数学補講 物理学補講A・B 生命科学補講 〕	薬学統計解析学				
薬学専門教育 化学系・生薬学系	有機化学A・B	有機化学C・D 天然医薬品学A	薬品合成化学A・B 医薬品化学A 天然医薬品学B 漢方生薬学	医薬品化学B		漢方医療薬学
分析・物理化学系	物理化学A・B 分析化学	機器分析学A・B 生体分析化学	放射薬学			
生物化学系	解剖学 生化学A 生理学A	生化学B 生理学B 細胞生物学 栄養化学 感染症学 公衆衛生学A	腫瘍細胞生物学 感染症治療学 公衆衛生学B			
医療薬学系		薬理学A・B 薬剤学A 薬物動態学	薬理学C 病態薬物治療学A・B 病態診断学A 薬剤学B テーラーメイド薬物治療学 臨床統計開発論	病態診断学B 病態薬物治療学C がん化学療法学 臨床情報学 医薬開発論 薬事関連法規 地域医療学 調剤学 医療薬学A・B		日本薬局方
選択科目						※3
実習等						
専門基礎	基礎科学実習					
薬学専門教育		有機化学実習 分析化学実習 機器分析学実習 物理化学実習 生化学実習	天然医薬品学実習 栄養化学実習 公衆衛生学実習 微生物学実習 薬理学実習 薬剤学実習 薬物動態学実習	薬学総合演習 実務事前実習	病院実習 薬局実習	アドバンスト薬学 薬学演習
研究等			総合薬学研究A		総合薬学研究B＜探求薬学コース＞ 総合薬学研究B＜実践薬学コース＞	

※1 SGD: Small Group Discussion

※2 PBL: Problem Based Learning

※3 生命科学探究概論、先端臨床薬学概論、PK-PD解析概論、DDS概論、分子薬品化学概論、分子病態学概論A・B、医薬品レギュラトリーサイエンス、実践医薬開発論、地域医療概論、がん化学療法概論、緩和医療概論、栄養管理概論、感染制御概論、精神医学概論

1年次「早期体験学習」・「基礎演習」について

1年次で学ぶカリキュラムの中から、医療人としての自覚、問題発見・解決能力の修得、豊かな人間性の修得等を学習目標とする「早期体験学習」および「基礎演習」について紹介します。

これらの科目は従来から開講していますが、早期体験学習では「企業見学」や「ようこそ先輩」が新たに加わります。また、文書作成能力向上のための課題提出・添削、プレゼンテーション能力向上のための発表ポスターの作成、企業や病院・薬局見学の目的等を明確にするためのSGD^{*1}の導入など、基礎演習と早期体験学習とを連動させ、またIT関連科目ともリンクさせた授業を行います。

● 早期体験学習

早期体験学習では、下記のような内容を学びます。

- ・ **薬害被害者から学ぶ**：「薬害根絶」のために薬害被害者の生の声から、薬剤師として何ができるのか、薬剤師は何を期待されているのかについて学びます。
- ・ **救命応急手当**：人の命の尊さを理解するために救命応急手当を実践します。【選択制】
- ・ **ハンディキャップ体験**：疑似体験を通し医療人としての「やさしさ、思いやり」について考えます。【選択制】
- ・ **ようこそ先輩**：薬学部の学生として、これから体験する事柄などを、先輩の話から学びます。【選択制】
- ・ **病院・薬局見学**：病院薬剤師あるいは開局薬剤師の業務を見聞し、薬剤師としてどのように患者や社会に寄与できるか等について学びます。
- ・ **企業見学**：製薬企業等の研究所や工場などを見学し、医薬品に関わる企業の業務内容について学びます。
- ・ **学内研究室見学**：本学の研究室を見学し、問題点の発見とその解決のためにどのように取り組んでいるのかを見聞し、サイエンティストとしての考え方について学びます。
- ・ **ポスター展示、意見交換会**：作成したプロダクトをポスター展示し、全員で意見交換を行います。

※【選択制】と記載されていない内容については、全学生が受講する内容です

● 基礎演習

「問題解決能力と豊かな人間性の育成」を目標として、その基礎となる自発的な学習態度や問題解決策を模索する姿勢を身につけ、また他人を思いやる心の育成を目指します。10名程度の少人数制とし、自ら問題発見し、解決していくPBL^{*2}を基盤に、SGD^{*1}などの手法を用いて演習を行います。具体的には「医療」をメインテーマとし、各担当教員の指導のもとで個人あるいは複数名のグループ単位で問題の提起、情報収集、解決策の探索、発表、議論、レポート作成までの一連の流れを修得します。

ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーについて

本学では三つの方針（ディプロマ・ポリシー：学位授与の方針、カリキュラム・ポリシー：教育課程編成・実施の方針、アドミッション・ポリシー：入学者受入の方針）を定め、その実行と達成に向けた教育活動を展開しています。

三つの方針のうち、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは次のとおりです。

● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学が目指す薬学教育は、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れ、さらに高度の専門的能力や研究能力を有する薬剤師である「ファーマシスト・サイエンティスト」を育成することである。これによって高度化・多様化が進んだ医療に求められる安全・安心に対応でき、また、製薬産業領域や公衆衛生領域等での新たな活力となる人材を輩出する。

本学のカリキュラムにより、ファーマシスト・サイエンティストとしての能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

● カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」はもとより、それらに本学独自のカリキュラムを加え、次の方針に基づき体系的なカリキュラムを構成することによって「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を行う。

- 1) (6年制薬学の基本) 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠し、適切に科目を配置することによって、6年制薬学の基本を高効率的に修得させる。
- 2) (自己実現・社会貢献) 本学独自の科目を加えた6年間の体系的なカリキュラムを学ぶことにより、高度な知識、技術、態度を身に付け、医療を通じて人に奉仕し、社会に貢献できる人材を育成する。
- 3) (科学的知識・技術) 1年次から専門科目及び実習の基礎を学び、薬学への興味・関心を高める。専門科目が本格化する2年次からは専門実習も取り入れ、専門知識や技術を涵養する。さらに総合薬学研究において最先端の科学に接することによって、科学及び技術の修得とともに、問題発見・解決能力を向上させる。
- 4) (実践能力) 初年次では主に早期体験学習や基礎演習等により学生が自ら考え、行動する契機を与え、高学年次の専門科目、実務実習及び総合薬学研究の履修によって、実践能力を高める。
- 5) (人間性) 教養教育の充実により社会常識や深い教養を身につけさせる。また、PBL^{*2}やSGD^{*1}を取り入れた少人数科目教育（早期体験、基礎演習）等を発端とし、実務実習ならびに総合薬学研究での分野やセンター等での活動を通して、より深く他人を思いやる心、豊かな人間性を涵養し、実践的コミュニケーション能力を醸成する。
- 6) (倫理観) 教養やヒューマニズムに関する科目、医療薬学系科目、実務実習等により、6年間を通して医療に関わる専門家としての自覚と倫理観を身につけさせる。

進路状況および2011年度学内合同企業説明会開催報告について

進路支援部長 安井 裕之

1. 2011年度卒業生の進路決定状況について

本学は2012年3月に6年制薬学部初の卒業生320名を社会に送り出しました。時代が求める新しい薬剤師のパイオニアとなる卒業生の皆さんのご活躍を祈念いたします。2012年3月卒業生の皆さんの進路状況は次ページに示す通りです。

6年制薬学教育移行後は製薬企業を中心とする「企業等」への就職者の大幅減が懸念されていましたが、全体の35%もの学生が企業等への就職を決めています。そのうち22名の学生は製薬企業の研究・開発部門に配属される予定です。これらの結果は6年制である本学が依然として企業のニーズに応えることができる学生を輩出している事実を示すものです。同時に、臨床経験を積んだ6年制薬学生に対する期待の表れでもあると考えています。

一方、「病院等」への就職者については増加を見込んでおりましたが、大きな変化は見られませんでした。過去2年間、新卒薬剤師が供給されなかった影響が今年度も続くことと予想されることから、進路支援部としても病院就職志望者に対する手厚い就職支援を行っていく予定です。

2. 2012年度卒業生の就職活動状況について

2011年12月の採用広報活動解禁を皮切りに、2012年度卒業生の就職活動がスタートいたしました。ただし、日本製薬工業協会に加盟する製薬企業は学事日程尊重の姿勢から採用広報活動解禁日を2012年2月1日に設定したため、2月が本格的な就職活動のスタートとなった学生も多いかもしれません。協会加盟の製薬企業の多くは実務実習に影響が出ない土日にも説明会を開催しており、薬学生に対する一層の配慮をいただいた形となっています。採用選考の開始は2012年4月1日以降を考えている企業が多く、選考終了時期は例年通り5月中旬頃となる見通しです。実質的な就職活動期間が大幅に短縮されているので、短期間に集中して企業研究等を行う必要があることが今年度の大きな特徴といえるでしょう。

病院、薬局および公務員の就職については大きな変化は見受けられませんが、昨年同様、薬剤師採用に対する需要が引き続き大きいことから、求人の早期化が見込まれます。病院や薬局を志望する学生の皆さんは希望する施設から早期に求人が出されることも考えられますので、情報をこまめにチェックすることを心がけてください。

就職活動について少しでも不明な点があれば、ぜひ進路支援部を活用し、情報収集を行ってください。皆さんの就職活動を全力で支援します！

3. 学内合同企業説明会の開催について

開催日	： 2011年12月23日（金・祝）
開催時間	： 午前の部（9:30～13:00） 午後の部（14:00～17:30）
場 所	： 躬行館1階（食堂、セミナー室）
参加企業	： 53社（午前27社、午後26社） ※参加企業は次ページ表参照
参加者数	： 午前196名 午後188名

2011年12月に53企業をお招きして学内合同企業説明会を開催しました。参加業種は製薬企業を主としたメーカー、CRO、SMO、医薬品卸売企業とし、その中から過去の就職実績等を基準として参加いただく企業を決定いたしました。昨年度の合同企業説明会には薬局にも参加いただいておりますが、今年度から製薬企業を中心とした説明会と薬局を中心とした説明会を分けて開催することで、参加者のニーズに合わせた説明会とすることを目指しました。なお、薬局を中心とした説明会は2012年4月上旬頃に開催する予定です。

本学の学内合同企業説明会の特徴は、なんといってもその規模です。1日に50社以上もの製薬企業、CRO、SMOおよび医薬品卸売企業が集まる説明会というのは、薬系大学では最大規模のものです。また、これだけの規模にもかかわらず、1社ごとに仕切りをしたブース形式で開催できる点も特徴的で、企業からは「他社の動きが気にならず説明に集中できた」などの評価をいただきました。

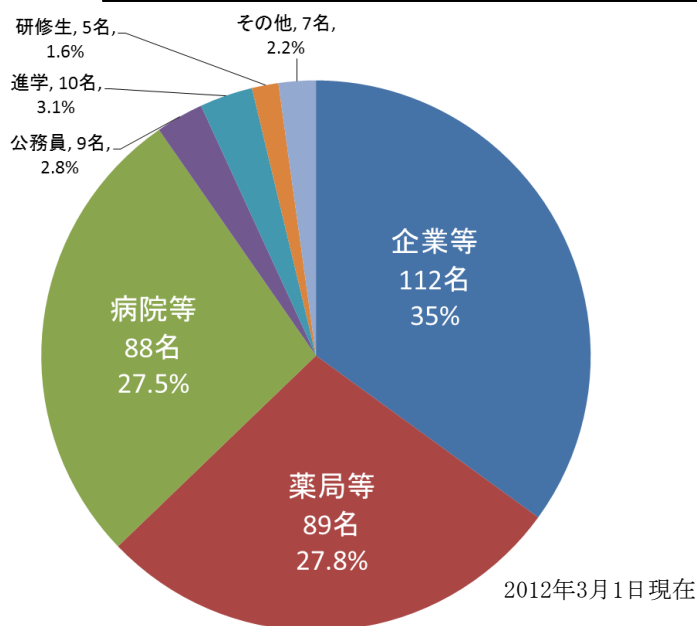
また、昨年度までの課題であった寒さ対策にも取り組みました。体育館での開催から躬行館での開催に変更したことにより、数多く寄せられていた寒さに対する不満点を解消できたと考えています。

進路支援部では、今後も就職環境の動向を睨みつつ、学生や企業の意見を聞き、この説明会をより有益な機会としていきたいと考えています。また、参加した学生全員が、説明会で得た情報を活かした就職活動を進めていけることを心から願っています。

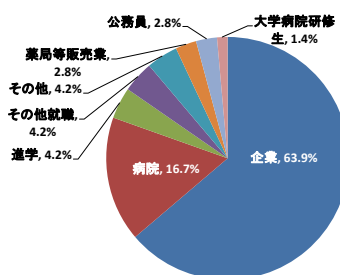


説明会の様子（躬行館食堂）

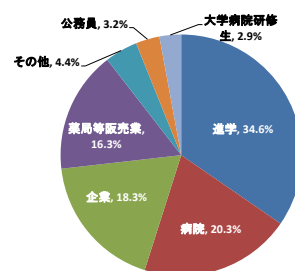
2011年度卒業生の進路状況



＜参考＞2009年3月修士(72名) 進路状況



＜参考＞2009年3月学部(344名) 進路状況



学内合同企業説明会参加企業一覧

【午前／9：30～13：00】

No.	業種名	企業名
1	製薬	小野薬品工業
2	製薬	京都薬品工業
3	製薬	グラクソ・スミスクライン
4	製薬	興和
5	製薬	三和化学研究所
6	製薬	塩野義製薬
7	製薬	大正製薬
8	製薬	大日本住友製薬
9	製薬	田辺三菱製薬
10	製薬	東和薬品
11	製薬	トーアエイヨー
12	製薬	日本新薬
13	製薬	マルホ
14	製薬	明治グループ(明治・Meiji Seikaファルマ)
15	製薬	ロート製薬
16	CRO	アスクレップ
17	CRO	インテリム
18	CRO	シミック
19	CRO	新日本科学
20	CRO	日揮ファーマサービス
21	SMO	サイトサポート・インスティテュート
22	医薬品卸	ケーエスケー
23	医薬品卸	スズケン
24	医薬品卸	メディセオ
25	その他	アークレイ
26	その他	桃谷順天館
27	その他	UHA味覚糖

【午後／14：00～17：30】

No.	業種名	企業名
1	製薬	あすか製薬
2	製薬	アステラス製薬
3	製薬	エーザイ
4	製薬	MSD
5	製薬	大塚製薬
6	製薬	協和発酵キリン
7	製薬	サノフィ・アベンティス
8	製薬	ゼリア新薬工業
9	製薬	第一三共
10	製薬	大鵬薬品工業
11	製薬	中外製薬
12	製薬	帝人
13	製薬	富山化学工業
14	製薬	日東薬品工業
15	製薬	日本ベーリンガーインゲルハイム
16	製薬	日本イーライリリー
17	製薬	ノバルティス ファーマ
18	製薬	ノボ ノルディスクファーマ
19	製薬	久光製薬
20	製薬	藤本製薬・エフビー
21	製薬	ヤンセン ファーマ
22	CRO	ACメディカル
23	CRO	イービーエス
24	CRO	メディサイエンスプランニング
25	SMO	アイロム
26	SMO	エシック

- 業種別の50音順で表記。
- CRO：医薬品開発業務受託機関。製薬企業が行う医薬品開発に関する様々な業務を受託する機関。
- SMO：治験施設支援機関。医療機関が実施する治験に関する各種手続や実施する医師等を支援する機関。

バイオサイエンス研究センター 起工式

2012年2月8日（水）に武田理事長、乾学長をはじめ関係者各位並びに来賓の皆様のご出席のもとにバイオサイエンス研究センターの起工式を執り行いました。

周辺環境に配慮しつつ、規模・設備・内容共に国内の薬系大学における最高水準を目指し、2013年6月の竣工に向け建築を進めて参ります。

本センターの建設に伴う南校舎解体工事に引き続き、関係者の皆様には大変なご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

バイオサイエンス研究センターの詳細はKPU_{NEWS} No. 168（1月号）をご参照下さい。



起工式式場



うがらぞ
穿 初めの儀（武田理事長）



学長挨拶の様子

「卒業生からのメッセージ」

食品衛生監視員として



高橋 智幸

2001年 学部卒業
（公衆衛生学教室）
高槻市 保健福祉部
保健所 保健衛生課
食品衛生係 係長

皆さん、こんにちは。このたび大学からKPU_{NEWS}への寄稿依頼がありまして、公務員の仕事について紹介させていただくこととなりました。私は大学で勉強していた時に公衆衛生学という分野において、人の健康や毎日の生活を守るための行政の役割に興味を持っていました。そのような時、自分が生まれ育った高槻市が中核市へ移行すること、並びに、それに伴い、市が保健所を新たに設置することになりました。そこで、専門職として薬剤師を募集していることを聞き、公務員として高槻市で働くことを決めました。

保健所が市として新しい機関ということもあり、研修の機会も与えていただきました。多くの方々の助言、指導を受けながら、現在10年目を迎え、食品衛生という分野において係長として、市民の皆さんの食に対する安全と安心を確保するため、日々業務に取り組んでいるところです。

業務の内容は、食品衛生監視員として、主に食事等に起因する危害発生防止の観点から、食中毒の発

生を未然に防ぐための啓発活動、飲食店などの営業施設への監視指導を行っています。食中毒を疑う事例が発生した場合には、原因究明や被害拡大防止の観点から、夜間休日を問わず、緊急的に患者さんやその利用施設の調査を行います。その調査結果をもとに原因を特定し、再発防止策を講じることが食品衛生監視員としての重要な仕事、役割となっています。

これらの仕事を通して強く感じたことは、日ごろから食事を作る方々が自主的な衛生管理への取り組みをされており、その努力のもとに食の安全が守られ、皆さんが安心して食生活を送ることができるということです。

食品は、その生産から皆さんの口に入るまで、その製造や流通は多様化しており、複雑なものとなっています。同じ食品衛生の分野の公務員であっても、国や都道府県、政令市、高槻市のような中核市と、その規模や働く環境によりその業務や役割も大きく異なります。

大学で学んだ知識やその専門性は、食品衛生監視員として、市民の皆さんの信頼へとつながります。また、その専門性を生かして、食の安全を確保するための仕組みを作り、安心していただくためにその内容をわかりやすく伝えることが求められます。

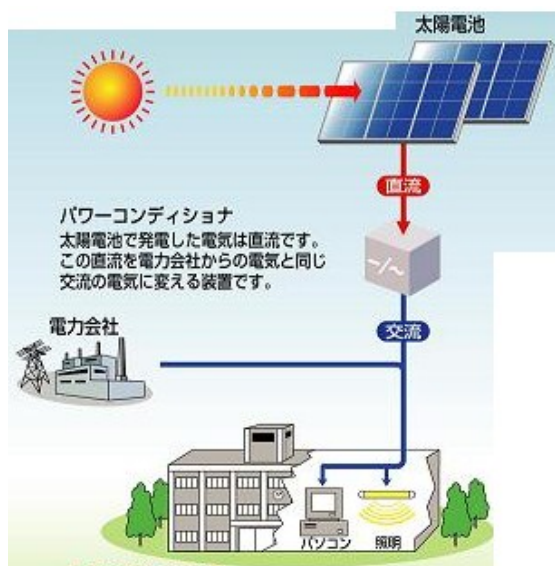
食は、日々の生活に欠かせないものであり、その関心も高く、その安全性の確保、安心して食生活を送っていただくための行政の役割は大きく、やりがいを感じています。

食品衛生監視員の仕事に興味を持たれた皆さん、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

太陽光発電設備稼働 発電開始!!

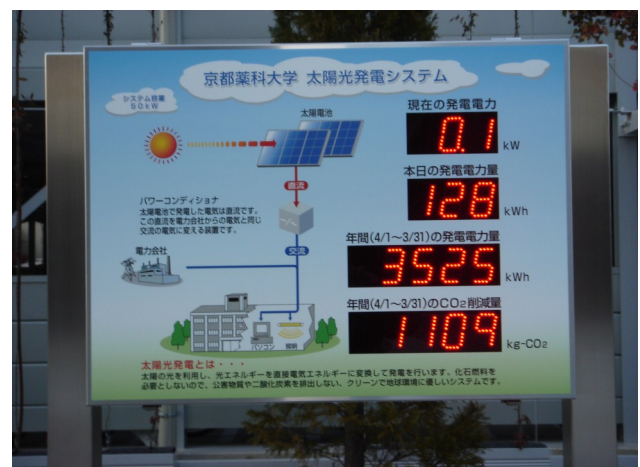
現在、東日本大震災の影響による原子力発電所の停止等により、日本国内の電力需給状況は非常に厳しい状況であり、関西電力管内においても節電対策が喫緊の課題であります。本学においても種々節電対策に取り組んでおりますが、今回その一環として立体駐輪場の屋上部に出力50kwの太陽光発電パネルを設置いたしました。2011年12月から発電を開始し、発電電力を構内照明に利用するなど、人と地球に優しい環境づくりをめざし施設整備に努めております。

太陽光発電システムは、エネルギー源が無尽蔵かつクリーンな太陽の光エネルギーを利用しており、また稼働部分は騒音の発生もないため、地球環境に配慮した発電設備です。その原理は、半導体が光を受けると電気を発生する仕組みを利用したもので、光エネルギーを電気エネルギーに直接変換して電力を供給するものです。



今回設置したシステムでは、208Wの太陽電池パネル（大きさ1500×990×36mm）240枚を駐輪場屋上屋根面に設置しております。太陽電池パネルは発電効率の優れた多結晶シリコンタイプのものを使用し、また、地域環境に配慮してパネル表面の反射を抑えた防眩タイプのものを採用いたしました。発電した電気はパワーコンディショナと呼ばれる機械で直流から交流の電気に変換され、構内の照明、空調負荷などに使用しています。太陽光発電設備は電力会社の配電系統に連系しており、電力会社から購入する電気と合わせて構内設備に供給されます。

また駐輪場正面には太陽光システムの発電量が学生や構内来訪者に一目で分かるよう表示装置を設置しました。現在の発電量表示の他、その日の積算発電量や、1年間の積算発電量及びCO₂削減量が表示され環境への貢献度が分かるようになっています。太陽光システムの発電量などの各種データは、施設課内に設置した専用の計測パソコンに記録され、過去のデータがいつでも見られるようになっています。



本設備による年間予想発電量は約47,000kWh（一般家庭約14戸分に相当）となります。太陽光発電設備は火力発電所のようにCO₂の排出もないため、年間14.8TのCO₂削減に寄与し、地球温暖化防止に役立っています。

本学では今後も人と地球に優しい環境づくりをめざし、施設整備に努めてまいります。

奨学金について

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。

募集については、随時奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにしてください。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談してください。

■日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のなどを十分考慮のうえ申込みをしてください。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（ただし留年中は停止になります）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 （無利子貸与）	自宅月額	30,000円、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	30,000円、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 （有利子貸与）	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

【奨学金の選考基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安 ※			
			給与所得世帯		給与所得以外の世帯	
第一種奨学金 （無利子貸与）	4月	高校	通学形態		通学形態	
		評定平均値	自宅	955万円	自宅	469万円
		3.5以上	自宅外	998万円	自宅外	512万円
第二種奨学金 （有利子貸与）	4月	特に定めない	通学形態		通学形態	
			自宅	1,207万円	自宅	721万円
			自宅外	1,250万円	自宅外	764万円

※1. 年収・所得の上限額は、4人世帯の場合の父母の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。

2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。

3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。

4. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返済の必要がない奨学金です。貸与型奨学金の募集については、掲示板でお知らせします。

名称	金額（年額）	給付形態	採用予定数（2012年度）
京都薬科大学奨学金 （給付型）	新入生：半期授業料の1/2 在学生：20万円	給付	新入生約10名 ※1 在学生各学年約10名 ※2
京都薬科大学奨学金 （授業料減免型）	半期授業料の一部（60万円）減免	減免 在学中1回 随時	約20名 ※3
京都薬科大学奨学金 （貸与型）	年額授業料の1/2以内	貸与 無利子 在学中1回 9月募集	約10名

※1. 入試成績優秀者を大学から選考

※2. 2年次～6年次生の成績優秀者を大学から選考

※3. 家計急変者（家計支持者の死亡、失業、廃業等）

■その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集のつど掲示板でお知らせしますので確認してください。本学に募集依頼がきていなくてもほとんどの地方自治体が奨学金制度を設けていますので、希望者は出身地の教育委員会に直接問い合わせてください。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】

奨学団体名	種別	月額	出願資格
石川県教育委員会	貸与	44,000円	石川県内に3年以上住所を有する者の子弟
宮崎県教育委員会	貸与	53,000円	宮崎県内に住所を有する者の子弟
岐阜県教育委員会	貸与	32,000円	岐阜県内に住所を有する者の子弟
山口県奨学会	貸与	52,000円	山口県に住所を有する者の子弟
朝鮮奨学会	給付	25,000円	日本の大学に在学する韓国人、朝鮮人学生
交通遺児育英会	貸与	60,000円	保護者が交通事故で死亡または後遺障害となった世帯の子弟
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気、災害等で死亡または後遺障害となった世帯の子弟

**2012年度大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程及び
薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)並びに
薬科学専攻博士前期課程(二次募集)入学選考結果**

2012年度薬科学専攻博士課程及び薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の入学選考を1月26日(木)に実施し、同日に合格発表を行いました。

2012年度薬学研究科薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の入学選考を2月15日(水)に実施し、2月23日(木)に合格発表を行いました。

博士課程(冬季募集)の志願者は1名で合格者は1名、博士後期課程(冬季募集)の志願者は3名で合格者は3名でした。薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の志願者は1名で合格者は1名でした。

2012年度薬学研究科の合格者数結果は次の通りです。薬科学専攻博士課程は11名(定員10名)、薬科学専攻博士後期課程は4名(定員2名)、薬科学専攻博士前期課程は3名(定員5名)となりました。

○2012年度薬科学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等 (単位:名)

志願者数	1
受験者数	1
合格者数	1

○2012年度薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の合格者数等 (単位:名)

志願者数	3
受験者数	3
合格者数	3

○2012年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の合格者数等 (単位:名)

	外国人特別入試
志願者数	1
受験者数	1
合格者数	1

2012年度入学試験結果と総括

2012年度の学部入学試験が終了しました。志願者数・合格者数は次の表のとおりです。

2011年3月11日の東日本大震災をはじめ、急激な円高進行により景気の低迷が昨年度に増して強く、受験生は経済的負担の少ない国公立大学や地元志向の傾向が更に強まり、2012年度の受験生は理高文低の傾向も出てきています。

本学の志願者数は、一般A方式入試については地元受験生を中心に208名の増加となりました。また、一般B方式入試は前年比50名の増加となりました。特に一般B方式入試当日(2月3日)大雪で受験できなかつ

た受験生のために、2月6日に追試験を実施しました。2012年度の本学への全体の志願者数は、前年比112.1%となりました。(2011年度は、前年比93.4%)

入試広報活動は、一年を通してオープンキャンパス、大学説明会(広島、岡山、三重、愛媛で開催)、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問等の活動により志願者の増加・確保に努めてまいりました。

2013年度入学試験についても広報活動を通じて、志願者の拡大・確保に努める所存であります。もし、皆様のご親戚、ご近所、高校の後輩等で、大学受験を控えた方がおられましたら、ぜひ本学受験をお勧めくださいますようお願いいたします。

(単位:名)

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50	49	49
一般公募制推薦	80	248	81
一般入学試験A方式	45	967	386
一般入学試験B方式	180	1,134	399
一般入学試験C方式	5	64	27

(合格者数は3月15日現在)

2012年度 オープンキャンパス開催のお知らせ

2012年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内くださいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。どうか、入試課にお問い合わせください。

6月のオープンキャンパス

〈日時〉6月10日(日) 10:00~12:45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会など

8月のオープンキャンパス

〈日時〉8月4日(土)・8月5日(日)

午前の部 9:30~12:30

午後の部 13:30~16:30

(両日とも、午前、午後の内容は同じ)

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・施設見学・相談会など

11月のオープンキャンパス

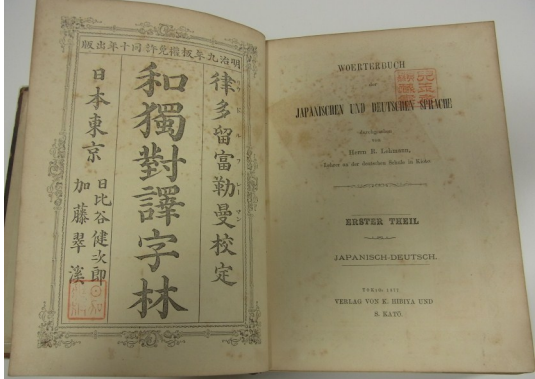
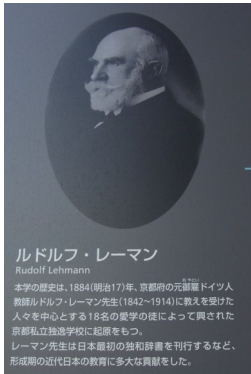
〈日時〉11月4日(日) 京葉祭開催期間中

10:00~12:45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学・相談会など

リウドルフレーマン
律多留富勒曼校定 和獨對譯字林



昨年、中央庭園がオープンしました。そこには本学の歴史を語るパネルなどが配されています。上の写真はそのひとつでレーマン先生を紹介しています。この解説文に辞書を刊行したことが記されていますが、それは1877（明治10）年に日本で最初に出版された和独辞書『和獨對譯字林』です。研究に携わっている方などから、図書館にこの辞書がありますか？という照会を受けることがあります。きっとオリジナルを求めているのですが、本学が所蔵しているのは複製版でした。こうした閲覧希望に応えるために、また本学との深いゆかりをもつ人の関係資料を整えておくためにも、ホンモノを備えておきたいと思って探していたところ、東京の古書店が売りに出している情報に行き当たりました。この辞書の購入について図書館運営委員会の先生方にご相談し、このたび蔵書に加えるはこびとなりました。

ヘボン氏による日本最初の和英辞書をドイツ語翻

訳することで創られた辞書といわれ、校定者レーマン先生はその翻訳成果の正誤などをチェックする役目だったのでしょうか。今の私たちから見て面白く感じるところは、見出し語の配列の仕方と言えそうです。見出し語はヘボン式ローマ字で表記されその後ろにカタカナが添えられています。ではその並べ方はと言うと、「いろは」順なのです。つまり、ABC文字列が「いろは…」で並んでいるのです。現代の感覚からすると使えない変わった辞書、そう言って悪ければ実に「ユニークな辞書」なのです。当時の書かれたものによると、「いろは…」はやはり引きにくく、1895（明治28）年にアルファベット順和独辞書が出るに及び、次第に忘れられていったのだそうです。とはいえ、その内容はとても優れていて、ヘボン氏の和英辞書とならんで、明治期の日本語を知るうえで貴重な資料であると評価されています。

テーマ展示

第9弾は、「京都本。一京都を舞台に描かれた本一」です。

京都を舞台にした本を読むと京都で過ごしているからこそ、浮かぶ風景や共感できる心情、京都好きの方にも再発見していただける京文化があります。京都薬科大学がある、ここ「山科」にも注目して特集しました。是非、ご来館ください。展示期間は、4月から6月末までです。展示中の資料はパンフレットを除き、全て貸出可能です。

開館日程

2012年 4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2012年 5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2012年 6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休館

9 : 00-20 : 00

10 : 00-17 : 00

休館=館内整備

クラブだより

剣道部

〈平成23年度〉

- ・第59回関西学生剣道選手権大会
男子個人戦ベスト16 鶴田弘明
全日本学生剣道選手権大会、
東西対抗戦、
韓国遠征出場
- ・第65回関西薬学生連盟剣道大会
男子団体 3位
新人団体Aチーム 3位
女子団体Aチーム 準優勝
男子個人戦 藤岡周助 3位
女子個人戦 小嶋愛未 準優勝
- ・第30回全日本薬学生連盟剣道大会
女子団体 優勝
- ・秋季関西医歯薬学生剣道大会
新人団体戦 3位

私たち剣道部は17人の部員で活動しています。初心者、経験者を問わず、大会入賞を目指して日々の稽古に励んでいます。また稽古以外では、遠征や親睦会による他大学との交流などがあり、非常に充実した活動を行っています。

ソフトテニス部

- 4月：関西医歯薬ソフトテニス大会
- 5月：四薬戦 男子団体2位 女子団体2位
- 8月：関西薬学生ソフトテニス大会 男子団体3位
- 10月：関西薬学生ソフトテニス六校リーグ戦
男子団体4位 女子団体2位

現在ソフトテニス部は男子8人、女子6人で活動しています。大学からソフトテニスを始めた人から経験者までが満足できる部活動となるように日々努力しています。

また、上記の大会でより良い成績が収められるように頑張っています。

ユーベルコール部

いつも部員みんなで楽しく歌っています。第48回定期演奏会では、たくさんのお客様にご来場いただき、ありがとうございました。これからもすてきな音楽を皆様に届けられますよう、練習に励みたいと思います。

〈主な演奏会予定〉

- 4月新歓コンサート@体育館
- 5月京都府合唱連盟主催合唱祭@八幡市文化会館
- 11月第49回定期演奏会@東部文化会館(予定)

皆様のご来場を部員一同お待ちしております!!

マンドリン部

私達は毎年10月の定期演奏会に向けて、日々楽しく練習しています。

去年10月23日には第83回定期演奏会を行い、たくさんの方にご来場いただき無事に終えることができました。

4月には京都の他大学との共催で合同演奏会を行います。

〈全日本マンドリン連盟・

京都ブロック第49回合同演奏会〉

2012年4月21日(土)

場所：長岡京記念文化会館

開演：18:00(予定)

曲目：「Beyond the skies」末廣健児

「虹彩」丸本大悟

「貴歌劇「愛の悪戯」

第一幻想曲」Ugo Bottacchiari 他

入場無料

4月の合同演奏会、10月の定期演奏会ともにどなたでもご入場いただけますので、ぜひご来場ください。

その他には、京薬祭のステージで演奏したり、毎年管弦楽部と交代で入学式・卒業式の祝奏もさせていただきます。

詳しくはHPをご覧ください。

<http://kyoyakumanoke.web.fc2.com/>

管弦楽部

私たち管弦楽部は12月に行われる定期演奏会に向けて、日々の練習に励んでいます。

今年度の活動実績と今後の予定

4/3 新入生歓迎コンサート

8/7～8/13 夏合宿(北志賀にて)

11月 京薬祭での演奏

12/8 第40回定期演奏会

文化パーク城陽

曲目：フィンランディア シベリウス

組曲「道化師」 グノー

交響曲第9番「新世界より」

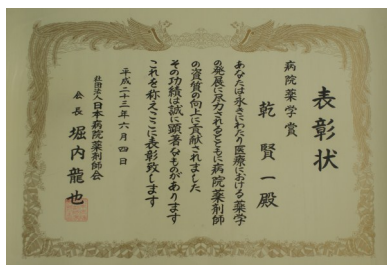
ドヴォルザーク

そのほかアンサンブル大会などクラブ内の行事を企画したりと、楽しく充実した活動をしています。

受賞

平成23年度 日本病院薬剤師会病院薬学賞受賞

平成23年度日本病院薬剤師会病院薬学賞を本学の乾学長が受賞しました。



的たんぱく質の一つを解明した発表が評価されました。

第23回ビタミンE研究会 奨励賞（ポスター賞）受賞

2012年1月27日に開催された第23回ビタミンE研究会において、薬品物理化学分野の岡村有里子さんが下記の通り、奨励賞（ポスター賞）を受賞しました。

【演題】 トコフェロールコハク酸による脈管新生因子Angiopoietin2抑制作用

【演者】 岡村有里子、濱進、土谷博之、福澤健治、小暮健太郎

第61回日本薬学会近畿支部大会 平成23年度支部奨励賞を受賞

2011年10月22日に行われた第61回日本薬学会近畿支部大会における下記発表に対し、薬品物理化学分野 土谷講師・代謝分析学分野 吉川講師・生薬学分野 中村助教が平成23年度支部奨励賞を受賞しました。

【演題】 レチノイドシグナルを介したレプチン依存的インスリン抵抗性改善メカニズムの解析

【演者】 土谷博之、江端優、小島千尋、池田義人、勝間陸太郎、濱進、首藤絃一、汐田剛史、小暮健太郎

レチノイドによるレプチン依存的インスリン抵抗性改善作用において、RARαを介したレプチン受容体発現上昇機構の解明を示した発表が評価されました。

【演題】 糖尿病克服を目指した新規Zn錯体の開発研究-配位元素置換による構造活性相関-

【演者】 吉川豊、邑上裕紀、内藤行喜、安井裕之

亜鉛錯体が糖尿病治療効果を示すためには、亜鉛と硫黄の織りなす結合様式が、非常に有益である事を発表した内容が評価されました。

【演題】 薬食同源の視点から薬用食品の生体機能成分の探索 ―エジプトニガウリの細胞増殖抑制活性成分と標的分子の解明―

【演者】 中村誠宏、松田久司、中嶋聡一、久留米愛、山下正行、吉川雅之

薬用食品エジプトニガウリなどからがん細胞増殖抑制活性成分を見出し、その活性発現に必須な構造を明らかにするとともに活性化合物と相互作用する標

お知らせ

不審な問い合わせにご注意下さい！

学生の実家へ京都薬科大学の職員などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話の報告が寄せられています。

本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは、一切行っておりません。

このような問い合わせ電話には、「答えられない」とはっきり拒否していただくとともに、お手数でも学生課にご連絡いただきますようお願い致します。

連絡先： 学生課 075-595-4614（直通）

第4回 自治会執行部主催クリスマス企画

今年度も昨年12月上旬からクリスマス当日にかけてのクリスマス企画を実施しました。これは愛学館と躬行館にクリスマスツリーを設置し、訪れた人にクリスマス独特の雰囲気を楽しんでもらうという企画です。

今回はクリスマスソングを愛学館ロビーで鳴らしたり、躬行館にもクリスマスツリーを飾ったりと、新しい試みを受け入れて頂き、とても嬉しく思いました。

至らない点も多々ありましたが、学生課や教育後援会の方々に、ご協力を頂き、今年も無事に終えることができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

今後も、私共自治会の企画によって京薬の皆さまが豊かな学生生活を送る手助けとなれば幸いです。

自治会執行部

学生相談室のご案内

充実した学生生活を送るために、学業のこと、家族のこと、友だちのこと、自分のこと…どんなことでもお気軽にご相談ください。精神科医および臨床心理士による相談室があります。

相談内容について、秘密は全て守られます。

学生相談室担当

精神科医1名

月1回、詳細日程は毎回掲示にて確認してください
臨床心理士3名

日 時：毎週火・水・金曜日

午前9時30分から午後1時30分まで

場 所：愛学館1階 医務室内カウンセリングルーム

相談方法：医務室で相談日時の予約をして下さい

受 付：学生課・医務室

連絡先： 学生課 075-595-4614 (直通)
E-mail: gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

⑤受講生は単位互換履修生として身分証明書が発行され、科目開設大学の図書館等を利用することが出来る。

⑥全ての科目を無料で受講できる（ただし、科目によっては、参考書等テキスト代等が必要）。などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月11日（水）までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要等については教務課にて配布している「単位互換履修生募集ガイド」を見て下さい。

また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>
<携帯><http://es.consortium.or.jp/student/m/>

科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!!

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます（2011年度は49大学から560科目が提供されました）。つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間1科目2単位を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます（2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます）。本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい。

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義は、「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。

「京都薬科大学 by AERA」が発売されました

まるごと1冊でひとつの大学を特集する大学選びのバイブル「アエラムック大学シリーズ」に医薬系大学として初めて京都薬科大学が登場します。

チーム医療の要として活躍する病院薬剤師密着ルポのほか、大手製薬メーカーで創薬に携わる研究者・被災地で奮闘した薬局経営者など、卒業生が多数登場します。

科学者としての薬剤師を育てるハイレベルな授業の実況報告、教授陣によるくすりの解説も掲載されており、進化する薬学の最前線がわかる一冊です。

2012年3月30日（金）に発売され、書店にお買い求めいただけます。

是非ご覧ください。



「京都薬科大学 by AERA」の表紙

2011年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式

2011年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月17日（土）午前10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院 博士後期課程4名、博士前期課程9名に学位記（博士又は修士）、学部 薬学科320名に卒業証書・学位記（学士）が乾学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、本学中央講堂兼体育館で、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

学位記（博士）授与式

3月17日（土）11時30分から愛学館第1会議室において、2011年度課程博士5名及び課程によらない博士（後期）5名に、乾学長から学位記が授与されました。

人 事

任 命

副学長 教 授 竹内 孝治
(任期：2012. 4. 1～2013. 3. 31)

副学長 教 授 後藤 直正
薬学教育研究センター長事務取扱

学 長 乾 賢一
情報処理教育研究センター長 教 授 深田 守
学生実習支援センター長 教 授 北出 達也
生涯教育センター長 特命教授 谷口 隆之
(以上 任期：2012. 4. 1～2014. 3. 31)

事務局進路支援課長代理 係 長 井本富美代
(2012. 1. 1付)

採 用

生命薬科学系病態生理学分野 教 授 芦原 英司
病態薬科学系薬理学分野 教 授 大矢 進
創薬科学系薬品製造学分野 講 師 小島 直人
基礎科学系健康科学分野 講 師 沼尾 成晴
生命薬科学系細胞生物学分野 助 教 賀川 裕貴
薬用植物園補助園 助 手 前田 晋作
(以上 2012. 4. 1付)

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 稲田 節子
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 金澤 治男
薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 佐藤 隆司

生涯教育センター

(薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター兼務)

特命教授 谷口 隆之

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター

特命教授 西野 武志

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター

特命教授 野出 學

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター

特命教授 藤本 貞毅

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター

特命教授 蕨内 徳蔵

(以上 契約期間：2012. 4. 1～2013. 3. 31)

配置換

学長付 (薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター兼務)

助教 高尾 郁子 (共同利用機器センター)

(2012. 4. 1付)

退 職

事務局進路支援課 課 長 小里 芳顕
(2011. 12. 31付)

生命薬科学系生化学分野 教 授 畑山 巧
基礎科学系健康科学分野 教 授 濱崎 博
生命薬科学系微生物・感染制御学分野

准教授 奥田 潤

薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター

(学長付兼務)

准教授 大槻 雅子

薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター

講 師 港 晶雄

創薬科学系薬品化学分野

助 教 相馬 洋平

放射性同位元素研究センター

主 事 沖津千代子

(以上2012. 3. 31付)

京薬会だより

<クラブ活動支援分配金の贈呈>

2011年度も昨年12月21日のクラブ活動キャップ会開催時に京薬会より各クラブに対して活動支援のためのクラブ活動支援分配金を贈呈しました。

2011年度の支援金は29クラブに総額80万円の分配となりました。

今後も京薬会は京都薬科大学のクラブ活動がさらに活発になるよう応援していきます

<学部新入生に分子モデル贈呈>

京薬会は本年度も入学祝いとして小型分子モデルを新入生に配付しました。

ご活用していただけると幸いです。

もし、受け取っておられない方がありましたら京薬会事務室（育心館3階）までお申し出ください。

<2012年度 京薬会代議員総会の開催予定>

2012年度京薬会代議員総会は5月26日（土）に開催されます。当日は午前中に支部長会、そして午後に代議員総会が予定されています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席くださいますよう御案内致します。

<ホームカミングデー開催予定>

本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月3日（土・祝）に開催します。昨年は前年より多くの先輩方の参加を得ることができましたが、本年は更に多くの卒業生の皆さんの里帰りをお待ちしています。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2011年12月～2012年2月に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等（卒業年次順）>

大杉 三郎(昭16)	今中 篤子(昭33)	山下 慶子(昭38)	北尾 善信(昭52)	富山 剛(平14)
久保田光二(昭23)	木村 恵一(昭34)	山口 博行(昭42)	柘植 邦博(昭53)	北尾 和之(平21)
小財 勲(昭24)	森田 康子(昭34)	蘆田 康子(昭45)	平野 隆(昭55)	
安藤 寛治(昭29)	小林 正明(昭35)	木島 早苗(昭46)	松本 明(昭55)	
今中 信義(昭31)	本岡美智子(昭37)	井岡 万純(昭49)	竹田奈保美(昭56)	

<法人役員・評議員・職員（五十音順）>

乾 賢一(学 長)	佐原 和美(係 長)	高山 明(教 授)	安本 義仁(課 長)	山下 豊彦(課 長)
北出 達也(教 授)	高野 江里(課 長)	村田 保(講 師)	山岸 伸行(准教授)	

<元教授>

野出 學

(2012年2月29日現在)

2012年1月発行『KPU_{NEWS} No. 168』の本文中に以下の誤りがありましたので、訂正してお詫び致します。

訂正箇所：P. 13「レーマン先生家 町の文化財へ」左列7～8行目

【正】オ**イ**レンブルク伯爵

【誤】オルデ**ン**ブルク伯爵